特色 GP「教養日本力」高度化推進プログラム　　アメリカ合衆国出張報告書

調査者：教務補佐　上原こずえ

| | |
|---|---|
| 訪問先 | アメリカ合衆国カリフォルニア州サンフランシスコ市<br>（アメリカ社会学会、サンフランシスコ州立大学） |
| 期日 | 2009 年 8 月 7 日～14 日 |
| 目的 | 今回の出張では、次の 2 点に関する調査を行った。<br>①アメリカ合衆国の社会学の分野における日本研究の動向<br>②サンフランシスコ州立大学民族学部における日本・日系アメリカ人研究・教育の動向 |
| 調査結果 | アメリカ社会学会の年次大会では、日本の反公害運動の一例として、1970 年代前後の沖縄における石油産業開発反対運動について発表。また、各分科会や「日本研究に携わる社会学者の集い（Japan Sociologists Network)」に参加し、米国の社会学界における日本研究の動向について調査。今年度のアメリカ社会学会では、社会運動論、組織論、社会階層論などの枠組みから多様な日本研究が発表されたが、米国内で学ぶ日本人留学生や、本学をはじめとする日本の各大学からの参加者も多く、今日的な問題である、経済不況に起因する教育や労働、人権の問題が議論されていたのが印象的であった。<br>サンフランシスコ州立大学では、民族学部アジア系アメリカ人研究科、准教授ウェスリー・ウエウンテン氏の研究室を訪問。ウエウンテン氏より、サンフランシスコ州立大学民族学部の歴史、特にアジア系アメリカ人研究科における日本・日系アメリカ人研究・教育の歴史と動向、今後の展開に関する話を伺った。今日のアジア系アメリカ人研究科の課題は、「モデル・マイノリティ」的な移民史の、日米または世界の国際関係史や社会運動史からの再検討であるとのこと。米国内で再考されている移民史をめぐる視点を、本学をはじめとする日本の移民研究にどのように取り入れていくことが可能か、検討していく必要性を認識した。 |